

### 【和泉商工会議所青年部の皆様へ】

和泉商工会議所青年部の本多です。令和2年4月17日の総会において、森前会長からバトンを受け、和泉商工会議所青年部 令和2年度 第25代会長に就任させていただきました。これから一年間、大変な年になると思いますが、皆さま方のご支援を賜りながら、この大役に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

就任に当たり皆様へのご挨拶をする前に、この場をお借りして、森前会長に一言、お礼を申し上げたいと思います。

昨年度は、平成から令和へと改元され様々な物や事柄に対して、確認と変更をする事から始まり、アジア初のラグビーW杯で日本中がお祭り騒ぎでいた中、台風19号が関東地方に記録的大雨を降らし甚大な被害をもたらした、そして、年明けからは、新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面し、非常に難しいかじ取りを迫られた1年でした。

このような局面において、森前会長は、YEGのスケールメリットを活かし様々な情報を発信して、見事なリーダーシップを発揮されました。そのご尽力に対して、心から敬意と感謝の気持ちを表せさせていただきます。

そして本年度は、4月7日に大阪を含む7都道府県へ自粛を強く求める緊急事態宣言が政府によって発令され、約1ヵ月が経とうとしています。その間、和泉YEGは、総会は勿論すべての事に対し会員の皆様とその家族・従業員の生命を第一に考えて、委任状による総会の開催、懇親会（卒業式・森前会長の慰労）の中止、5・6月度例会の延期、各会議の中止またはwebでの開催、それら全てが初めての事でした。

あの時は、『1ヶ月で収束し、直ぐは無理だけど、徐々に経済も戻って普通に活動出来る。』少しだけ期待していました。可能なら令和元年度の卒業式を含めて森前会長への慰労会を開き、皆様の前でご挨拶出来るものと思っていました。しかし、4月16日には対象地域が全都道府県へと拡大され、収束が見え無くなり、全く想定していない事が起こっていると感じ、改めて経営者として、青年経済人として、地域を愛するものとして、和泉YEGのメンバーとして、どうあるべきか、問われていると感じます。

今、コロナウイルスで経済が停止しようとしています。当たり前だった事が当たり前で無くなるようとしています。

同時に目の前には大変な思いをして、悩み苦しんでいる多くの仲間がいます。私のやるべき事は、一緒に悩み苦しみを共有することです。その中で、互いの知識と技術、経験を集結させることにより、前向きな一歩を踏み出してもらえるのでは無いかと考えます。

考え、悩むことも大事ですが、まず行動です。行動しなければ何も変わりません。何も達成できません。『いつの時代も世の中を作っていくのは行動した人だけだ。』今をチャンスに変えましょう。

最後に、令和2年度 和泉 YEG として、私が掲げさせていただいたスローガンは、『おかれた場所で笑顔をさかせよう！』です。これは、生きていれば様々な事が起こります。想定外の事、期待外れの事、本当にやりたい事と違う。その様な状態・立場に置かれても、笑顔を絶やさないと、今の場所で自分にしか咲かせない笑顔の花が咲き、いつものまにか思っていた以上の居場所が出来上がっている。という意味です。

まさに、今がその時で、先が全く見えない状態で、不安と絶望を描くのではなく、今まで我慢した御褒美とチャンスを描き、和泉 YEG のメンバーが笑顔で居るからこの街は様々な花が咲き乱れ、更なる飛躍に変わると信じています。

和泉商工会議所青年部の皆様、共にこの難局を乗り越えていきましょう。宜しくお願い致します。